


人間を数値化しないアプローチ
質的研究の魅力とこれから

国際医療福祉大学大学院 講師
磯野真穂



-質的研究の前に...
そもそも研究って何？

基本のキ①
-エッセイ&感想文と何が違うの？-

エッセイ&感想文	アカデミックライティング
<ul style="list-style-type: none"> テーマがある 形式は自由 問いを立ててもそれに答える義務はない 文中のアイデアや情報がどこから来たのかを述べる必要はない 	<ul style="list-style-type: none"> テーマと問いがある 形式がある 問いの答えを必ず明示する義務がある 参考文献一覧と引用により、考えの出所をはっきりさせる必要がある

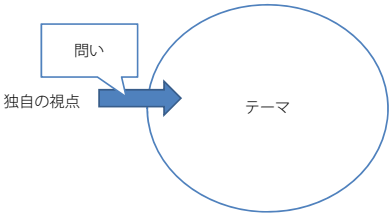
基本のキ②
-テーマと問いとは？-

エッセイ
国際医療福祉大学大学院について
テーマ

アカデミックライティング
国際医療福祉大学大学院に進学する院生の志望動機は何か？
テーマ 問い

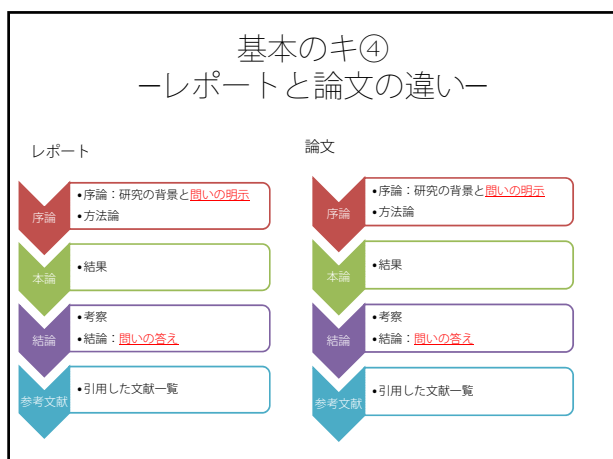
国際医療福祉大学大学院に進学する院生は院に何を期待しているか？
テーマ 問い

基本のキ②
-テーマと問いとは？-



基本のキ③
-アカデミックライティングの形式-

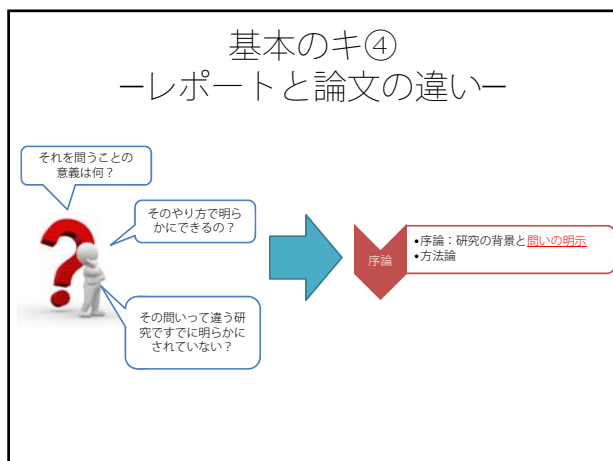
エッセイ&感想文	アカデミックライティング
なし	<ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-bottom: 5px;"> 序論 <ul style="list-style-type: none"> 序論：研究の背景と 問いの明示 方法論 <li style="margin-bottom: 5px;"> 本論 <ul style="list-style-type: none"> 結果 <li style="margin-bottom: 5px;"> 結論 <ul style="list-style-type: none"> 考察 結論： 問いの答え <li style="margin-bottom: 5px;"> 参考文献 <ul style="list-style-type: none"> 引用した文献一覧



基本のキ④
ーレポートと論文の違いー

分かれ目は問いの意義を示せるかどうか！

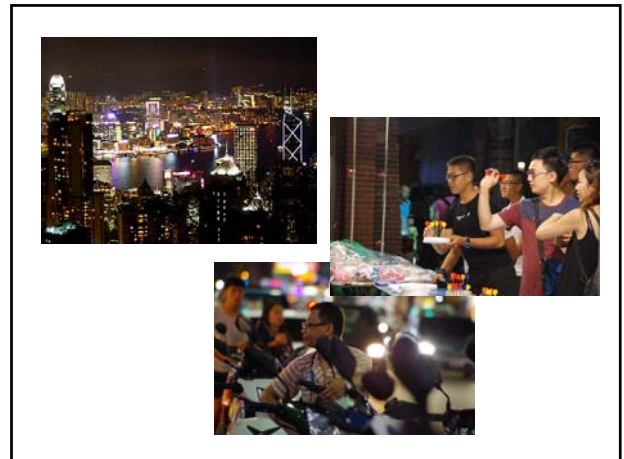
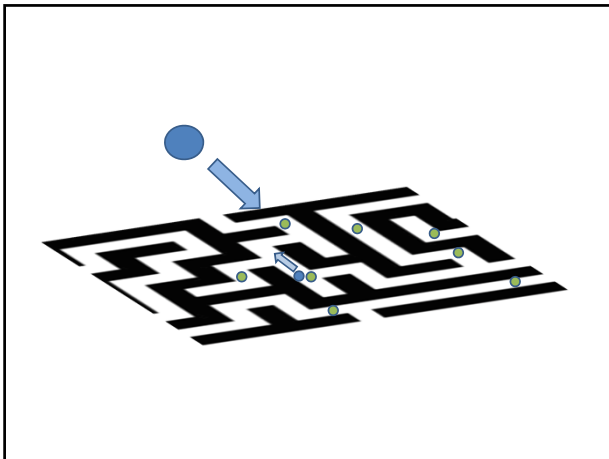
レポート：自分にとって関心のある問い
論文：関心を共有する人々全般にとって意義のある問い



質的研究って何？

1. 上空から、肩越しへ
2. 管理から、理解へ
3. 傾向提示から、視点開発へ

上空から肩越しへ



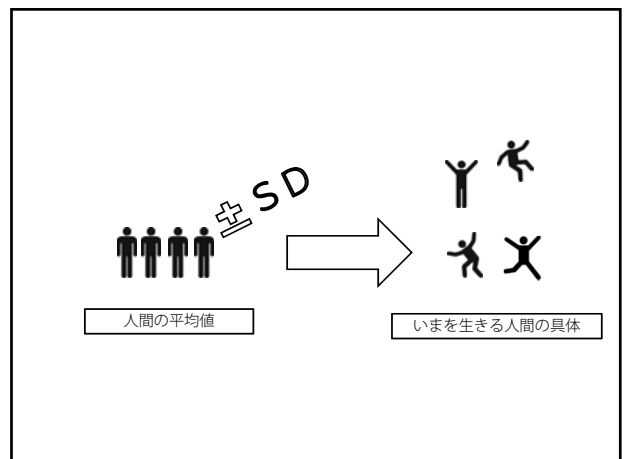
2. 管理から理解へ


統計の思想の
おおもとは「管理」にあり

国民国家は統計によって本質的に特徴づけられ、国民国家が自らと自らの力を定義するためには、統計局を必要とすることにいつ早く気づいたのはドイツの思想家と国家官僚だった。
—イアン・ハッキング『偶然を飼い馴らす』

正常の発見
逸脱者の矯正

リスク算出
リスク回避






平均は何か？
正常は何か？
いかに逸脱を正常に矯正するか？

→ 多様性はどこからくるのか？
その多様性といかに私は向き合うか？

3. 傾向の提示から視点の開発へ



集団の傾向を明らかにする

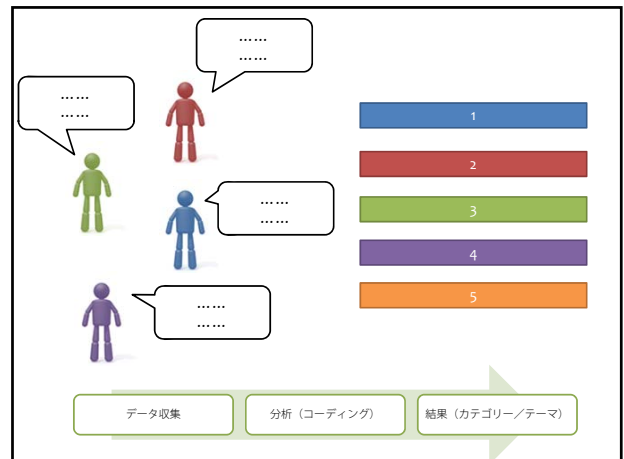
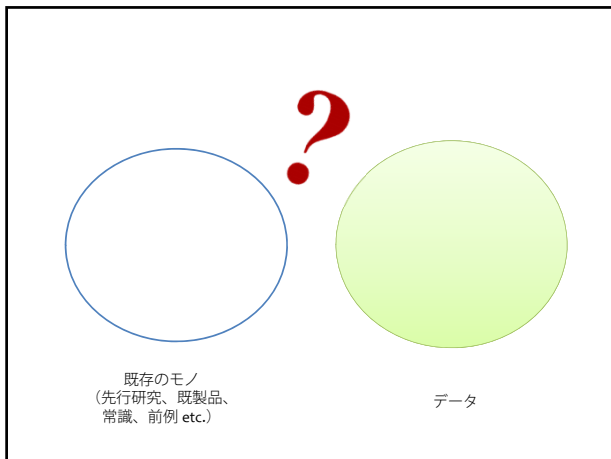
物事の見方を一新する



PRODUCT OUT

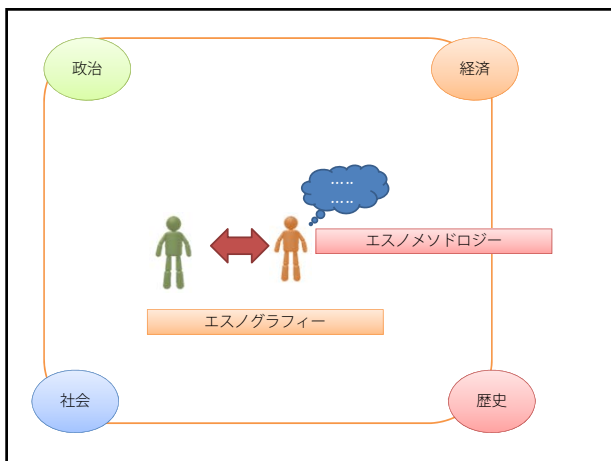
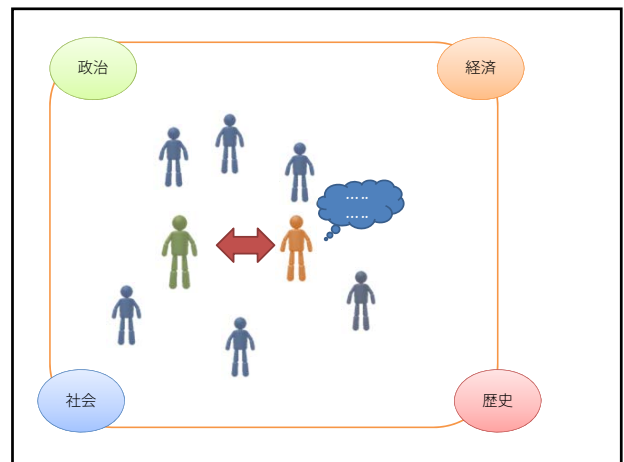
質的研究はどう行うのか？

やるのは簡単。
しかしよいものをやるのは難しい…



質的研究による視点発掘

This box contains the text '質的研究による視点発掘' (Discovery of perspectives through qualitative research).




Type M : 「学ぶことに夢中になる経験の構造」に関する会話分析からのアプローチ
大辻秀樹
教育社会学研究 (2006),78:147-168

This box contains a reference to a specific research approach. The text reads: 'Type M : 「学ぶことに夢中になる経験の構造」に関する会話分析からのアプローチ' (Type M: Approach from conversation analysis regarding the structure of the experience of becoming absorbed in learning), followed by the author's name '大辻秀樹' (Shigeaki Ohtsuki) and the publication '教育社会学研究 (2006),78:147-168'.

子どもたちはどのような時に学ぶことに夢中になるのか？

＜断片3＞ 『おこく 授業-屏風 (びょうぶ) 絵の巻を捲ろう！』NHK教育2004年6月24日放送より

01 T : 実ほねーこれねー。こうゆうものに書かれてい
 02 : るんです。何に書かれているでしょう？



03 S 1 : 屏風
 04 S 2 : [()] 図1
 05 T : あっ、なんで知ってるのみんな、よく知ってますねー。実物を見
 06 : た人は、わかってるんですがー。あのー屏風に描かれています


＜断片5＞

01 T : まずー、えー() これなんだいったい。
 02 : (2.0)
 03 S 1 : 4コマ漫画
 04 T : ふん、あっ、4コマ漫画hh、4コマ漫画でー、こうなってるー。
 05 : えー、風神雷神さんが、よう風神君とかゆうてこうやってー
 06 S 2 : hh [hhhhhhhhhhhh hh (後者の生徒の笑い)]
 07 T : 【登場してくる】ね、実ほねーこれねー…… (断片3へ)

子どもが学ぶことに夢中になる教師との対話の構造を新たにTypeMと名付ける

Type Mの特徴

- 「質問—誤答—評価」という特徴的な連鎖構造を持ち、「応答者が試行錯誤しつつ自力で正解に到達する」という学習経験を導きうる。
- その端緒となる質問部分には、「正解教示の保留」と「部分教示」という特徴がみられる。



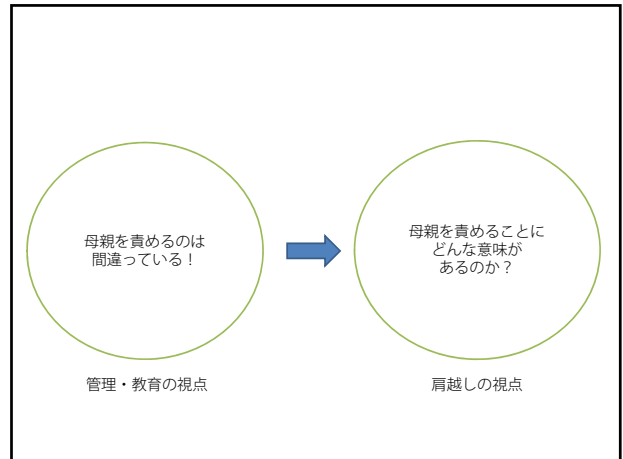
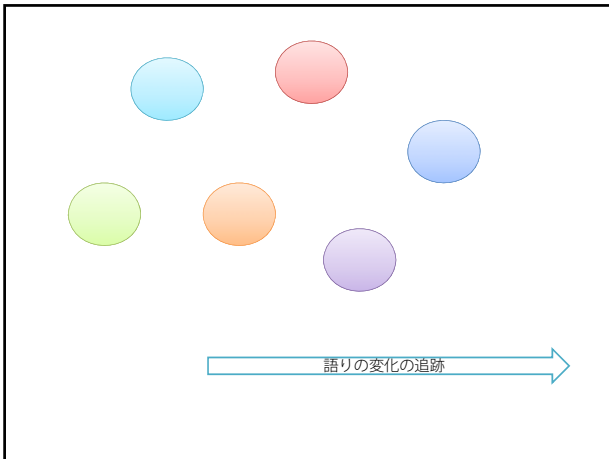
『なぜふつうに食べられないのか—拒食と過食の文化人類学』
 春秋社、2015：『家族モデルの閉じられた救済』より

自分に対して「自信」っていうものは全くなかったんですよ。だから、大学受けてることとか、大学受けてその後どうなるだろうとか、そういうすべてが「私にはできない」というか「私には無理」って思っていて...でも誰に対しても不安をぶつけるわけにはいかなかった。でも内心はものすごい「私、何もできない」って思っていて、「私、何もできない」っていうのを身体で表現したというか...やせることで親が気にしてくれる。「そんなに頑張らなくていいよ」って言ってもらえる。

じゃあ、どうすれば私は「もう治っていい」と思えるのか。やっぱりそれは、母にほんの少しでもいいから非を認めてほしい、ということでした。

摂食障害においてなぜ母親は責められるのか？

この形式を「家族モデル」と名付ける



以前通っていた病院が主催する当事者の会にゲストとして呼ばれたのち—

拒食の状態は親に受け入れられるためのチケットっていうか

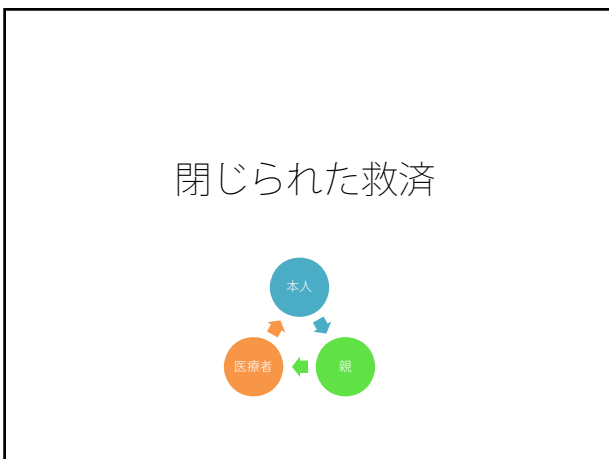
斎藤学の『生きるのが怖い少女たち』を読んだのち—

(母の言う) 父への不満や愚痴を聞き、何とか母を守ってあげなきゃと思っていました... そう確かに(「拒食」という)やり方はまずかったけれど、何とかそんないびつな関係を壊したい、と私なりに反乱を起こしたことはちょっと肯定できるような気がしました。

80年代から90年代にかけて母親の子育てと摂食障害の関連をみる研究、書籍が国内で大量に発表される

家族モデルのLooping Effect

専門家により作られた言説を当事者が積極的に内面化することで、その言説が真実味を帯び、強化される。しかし一方で、その言説が過剰に消費されることで、「摂食障害」そのものの形が変わっていってしまう。



なぜ日本で根付いた「家族モデル」がシンガポールでは根付かないのか？

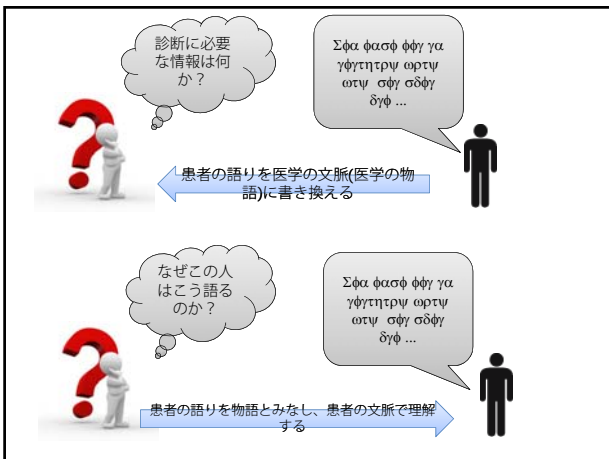


家族モデルは戦後の日本のジェンダー観の影響を受けた時代の落とし子である

ナラティブ・ベースド・メディスン (NARRATIVE BASED MEDICINE)

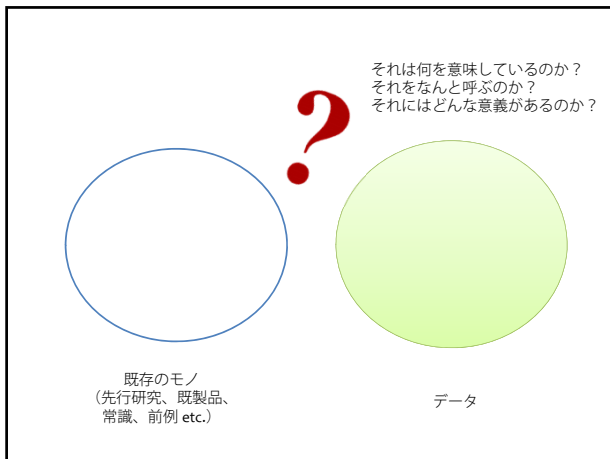
ナラティブ・ベースド・メディスン(NBM)とは？

- 1990年代の後半：EBMに欠けている部分を補完する医療として提唱される
 - 患者の語りを疾患の観点から理解するのではなく、患者の人生の文脈（物語）に沿って理解し、患者さんにとって病気がどのような意味を持つのかを知ること
 - エビデンスから零れ落ちる人間の多様なあり方を捉えること



妥当性？

一般化？



ETHNOGRAPHIC QUESTIONS

The meaning of a symbol can be discovered by asking how it is used rather than asking what it means

“The Ethnographic interviews”, James Spradley

3 types of questions

- Descriptive questions
 - 前提：質問と答えは研究者の世界からではなく、インフォーマントの世界から作られる。
 - ⇒大量の言葉のサンプルをインフォーマント自身の口から得る
- Structural questions
 - domain analysisに使われる。ドメインにどのような言葉が入っているかを明らかにする
- Contrast questions
 - 前提：インフォーマントの世界観の全容はなかなか言葉では語られない。
 - ⇒それぞれの用語やドメインが意味的にどのようにつながっているかを明らかにする。

Descriptive questions

- Grand Tour Questions
 - あなたの一日の仕事の流れを教えてください。
- Mini-Tour Questions
 - ○○をするときはどのようにするか詳しく教え得てもらえますか？
- Example Questions
 - 例えばどのようなときに■■■を使うのですか？
- Experience Questions
 - △△として働く経験はどのようなものであったか教えてもらえますか？
- Native-Language Questions
 - 最近経験したインシデントについて教えてください

Expanding the length of the questions tends to expand the length of the response

Structural Questions

- Verification questions
 - 1.1 Domain verification questions
和食にはどんなものがありますか？
 - 1.2 Included term verification questions
味噌汁は和食に入りますか？
 - 1.3 Semantic relationship verification questions
箸で食べものを渡すことを、「箸渡し」というのですか？
 - 1.4 Native-Language verification questions
「箸渡し」はなぜいけないとされているんですか？
- Cover term questions
- Included term questions
- Substitution frame questions
- Card sorting structural questions

Structural Questions -3 principles-

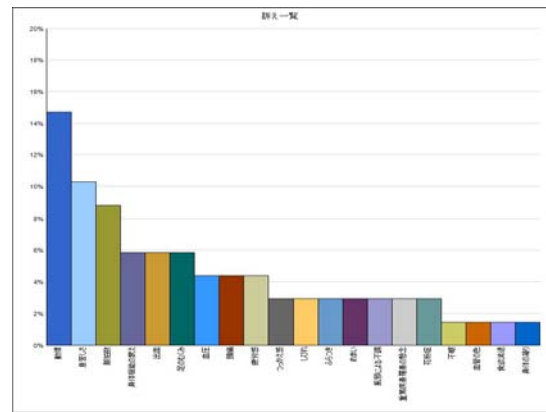
- Concurrent Principle
 - descriptive questionsと一緒に聞くこと
- Explanation Principle
 - なぜその質問をするのか、その背景を説明せよ
- Repetition Principle
 - ドメインに入っている用語をできるだけ多く聞きだすために、sqは繰り返し聞くこと。

Contrast Questions

1. Contrast verification questions
 - お話を聞いているとパンは和食に入っていないようなのですが、パンのほかに和食には入らないものはありますか？
2. Directed contrast questions
 - あなたはこれまで和食の例として、寿司、懐石料理、てんぷら、味噌汁、漬物を上げてくれました。その中でふだんあなたがよく食べるものは何ですか？
3. Dyadic contrast questions
4. Triadic contrast questions
5. Contrasts set sorting questions
6. Twenty questions game
7. Rating questions

質的研究の視覚化

【2. 質的データの視覚化】



【2. 質的データの視覚化】



【2. 質的データの視覚化】





はらはらしましたが、よかった！
 やっとご飯が食べられそうです！
 くじけそうになっても前に進む
 逃げずに前に進む姿勢に感動しました！
 ゲンカイまで前に進もう！
 てくてく前に進もう！

タグ見ると地獄の様相けど多分明日
 は「SMAP存続おめでとう！感動しまし
 た！これからも応援します！」ってい
 うコメントだけ流れる

人間を数値化しないアプローチ
 質的研究の魅力とこれから

総括

1. 上空から、肩越しへ
2. 管理から、理解へ
3. 傾向提示から、視点開発へ

人間を人間足らしめている最も大切な要素は、人類のあらゆる文化に普遍的にみられる特徴にもっとも顕著に示されるのであって、個々の文化の特質の中にはないと考えるのは偏見であり、そのような考え方に加担する必要はない...もしかしたら民族の文化的特質の中に一彼らの風変わりなところこそ一人間とは何かを最もよく教えてくれる発見が見出されるのかもしれない。

クリフォード・ギアツ 『文化の解釈学』